

事業報告 令和5年度 教育事業 タイニーキャンプ

令和5年7月8日(土)～9日(日)
【対象】小学1・2年生
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

自然の中で共同生活することにより、感性・自主性・協調性を育む機会とする。また、読書や読み聞かせと自然体験をリンクさせた活動を通して、読書と野外活動を身近に感じてもらい、興味・関心を高めることで、すすんで読書や自然体験活動をしよとする姿勢を養う。

2. 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

3. 活動日程 *雨天のため、雨プログラムを実施

7月8日(土)		7月9日(日)	
10:30	受付	6:00	起床
11:00	開会式	7:00	朝のつどい
11:30	自己紹介	7:20	朝食
12:30	①簡単な野外炊飯をしよう!(カートンドッグ)	8:00	荷物整理・清掃、散策
14:00	②秘密基地をつくろう!	9:20	⑤お弁当づくり(おにぎり弁当)
17:00	夕べのつどい	10:30	⑥秘密基地で遊ぼう!お弁当を食べよう!
17:20	夕食	12:30	⑦基地の解体をする
18:30	③絵本専門士による読み聞かせ	13:30	ふりかえり
19:20	④雨のお絵かき	13:45	閉会式
20:00	入浴・就寝準備	14:00	解散
21:30	就寝		

4. 参加者

小学1・2年生32名(男17名/女15名)

5. 企画運営のポイント

- ・ひみつ基地づくりをとおして、班の友達同士で共同作業したり、自分の感性で様々なものを創作したりする機会とした。
- ・絵本専門士を招き、夜のプログラムとして絵本専門士による読み聞かせを実施したり、体験活動の前に導入として絵本の読み聞かせを行ったりすることで、読み聞かせと自然体験をリンクさせた事業とした。
- ・ボランティアの資質向上を図るために、初めて参加するボランティアと経験数の多いボランティアを組み合わせることで、それぞれの立場から課題をもって事業に取り組めるようにした。

6. 参加者の声(聞き取りアンケート及び保護者アンケートより抜粋)

- ・みんなでホットドックやひみつきち、お弁当づくりをしたことが楽しかった。
- ・にじみ絵で、絵を雨にぬらすのが楽しかった。
- ・行きは不安だらけで、夕方に迎えに来てほしいと半泣きで行きました。1泊して翌日、帰りたくないと言いつつ泣きながら帰りました。急な親離れで、親は寂しく感じました。ものすごく楽しかったようで、次は7回くらい泊まりたいと言っています。子離れするためにも、またこんな機会には行かせてあげたいと思います。
- ・バスに乗っていく時は緊張した面持ちでしたが、バスから降りてきた時は遅しさを感じました。親のいないところでお友達やボランティアと関わり、自分のことを自分でやる。とても良い経験をさせていただきました。
- ・家でも自分でおにぎりを作って、食べて満足げでした。これからいろいろなことにチャレンジして欲しいと思います。
- ・参加後は自分から何か手伝うことはない?と良く言ってくれるようになりました。周りが見えているんだなと成長を感じました。

7. 活動の様子

①簡単な野外炊飯をしよう！（カートンドッグづくり）



②秘密基地づくり



②秘密基地づくり



③絵本専門士による読み聞かせ



④雨のお絵かき



⑤お弁当づくり



⑥秘密基地で遊ぼう！お弁当を食べよう！



8. 成果と課題

(1)保護者アンケート結果 事後アンケート回収 24 名（回収率 75%）

タイニーキャンプ全体を通して	満足：21名	88%
	やや満足：3名	12%
	やや不満：0名	0%
	やや不満：0名	0%

(2)成果と課題

- 活動全体を通して、「～してもいい?」「うん」「ありがとう」、「～持ってきて」「いいよー!」というようなコミュニケーションが子ども同士の中でよく見られ、班の友達を思いやる気持ちや協力して活動を行う姿が見られた。
- ひみつ基地づくりでは、素材を組み合わせてマラカスやお面を作ったり、ひみつ基地内のテーブルをアクアリウムとしたりなど子どもたちの豊かな発想が見られ、感性を育む機会とすることができた。
- 絵本専門士の方に読み聞かせを行っていただき、子どもたちが様々な絵本に触れる機会を作ることができた。じっと聞き入る子どもたちの姿が見られ、改めて子どもたちが絵本を好きなことを感じる事ができた。
- ひみつ基地づくりやおにぎり弁当づくりの際、絵本を使って説明を行った。絵本を通して説明を行うと、集中して話を聞けるだけでなく、視覚的にもこれから行う活動の内容を知ることができ、子どもたちがイメージをもって活動を始めることができた。
- 初めて活動するボランティアが多く、入浴指導や宿泊棟内での過ごし方といったボランティアが主になる場面での指導や、子どもたちとのコミュニケーションの取り方などに悩んだと報告があった。ボランティアの実情に合わせて、場面ごとの指導や体調不良者が出た際の対応をより細かく共有するなど、経験の浅いボランティアの不安を軽減できるような事前準備に力を入れていきたい。